

# 1-9. 東部景観区域

## 区域の概要

- 東部区域は、生駒山系の緑とともに多くの農地が残る区域です。また山間地では大和棟などの特徴的な文化を今に伝える穂谷などの集落があり、里山の景観を形成しています。一方で新たな道路が整備され、それらを軸として新しいまちへと姿を変えつつある地区も有します。
- 今後は生駒の山なみとそこで培われた暮らしの風景を大切にするとともに、緑いきづく豊かな自然とバランスよく共存できる新たなまちなみを形成することが求められます。



### ■ 穂谷集落

里山と調和する  
歴史的な集落景観



### ■ 国道 307 号

地域の新しい幹  
線道路

## 景観形成イメージ

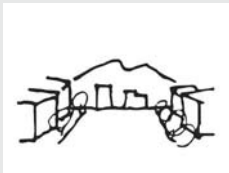


### ■ 区域の景観資源

国見山の展望（枚方八景）、穂谷川、巖島神社、三之宮神社、尊延寺、杉集落、尊延寺集落、穂谷集落、国見山自然巡回緑道、氷室路、穂谷小径、野外活動センター、東部清掃工場、関西外国語大学、津田サイエンスヒルズなど

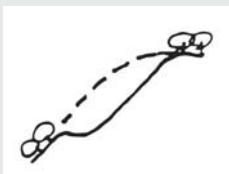
## 地域特性を活かすために

### 生駒の緑と暮らしの風景を大切にする



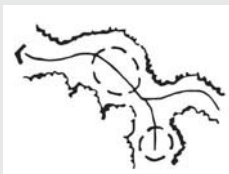
#### ■生駒の山なみ

生駒の山なみは市街地の背景となっている。



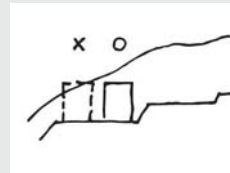
#### ■山地の開発

部分的に山肌が現れており、緑の回復が求められる。



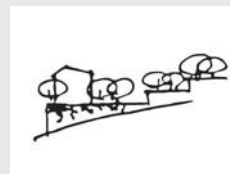
#### ■里山と穂谷川

穂谷集落、尊延寺集落など、背後の里山や穂谷川と共生しながら育まれてきた里山がある。



#### ■山なみに配慮する

市街地からの山なみの眺望、稜線の連なりなどに配慮する。



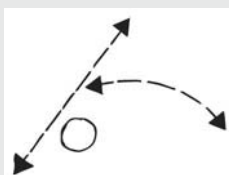
#### ■緑を修復する

緑の修復、垂直緑化、開発地の緑化を進める。



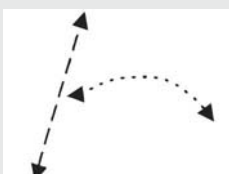
#### ■里山の景観を大切にする

里山では、建築物等は伝統的な素材、色あいを用い、傾斜屋根を基本とする。



#### ■大規模な開発地

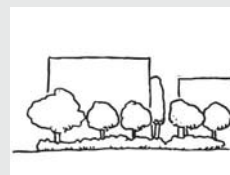
大学や工場、研究施設など大規模な建築物が立地する。



#### ■新しい道路軸

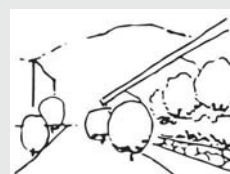
第二京阪道路や国道307号などの新しい道路軸が整備されている。

### 新しいまちづくりを工夫する



#### ■大きな敷地を活かす

周辺の緑とつながりを感じられるよう、敷地周囲の緑化や建築物の配慮等を工夫する。



#### ■美しい沿道景観をつくる

周囲の山なみと調和した緑豊かな沿道景観をつくる。